

## 1. 老人とカエル

年の頃は 80 歳のこの男、森を歩いて通り抜けていた時、ある声が聞こえてきました。

「助けて、助けて！」

老人は驚いて立ち止まり辺りを見回しました。でも誰も見えませんでした。

彼は歩き続けました。そしてまたその小さな声を聞きました。

「助けて、助けて！」

再び彼は立ち止まって辺りを見回しましたが、まだ誰も見えませんでした。

「下の方よ、下の方よ！」とその声は言いました。

老人が見下すと 1 匹のカエルがいました。

カエルが喋れないのを知っているので、彼は歩き始めました。その時、カエルは強い声で怒鳴りました。

「下の方よ。私を見て。私はカエルよ！」

老人は止まって振り返りました。

「助けて、と言った声は君かい？」

「そうですとも」

「何を助けてもらいたいんだ？」

「私を持ち上げてキスして下さい」

「なんでカエルにキスするんだ？」

「私は本当はカエルじゃないの。私はとても美しい女性の精霊なのよ。もしあなたが私にキスしたら私はまた女性になれるわ」

興味深いので、老人はカエルにもっと質問しました。

「どうして蛙になったんだ？」

「私は男の精霊に騙されたのよ！」

それから蛙はもっと説明しました。その彼女、精霊は老人の願いを叶えられると。

「あなたは幸せ？そうでなければ寂しい？」

「ちょっと寂しいな。妻は20年前亡くなり、私の家はとても寂しい場所になった」

「私があなただけをまた幸せにしてあげられるわ。私があなたと一緒に住むとてもきれいな女性を連れてきてあげる」

「お金はあるの？」とカエルは聞きました。

「いや、毎月500ドルの定期収入で生きているんだよ」

「私は何百万ドルもあなたの銀行口座に入れてあげる」とカエルは言いました。

そこで、老人は腰を曲げてカエルを拾い上げました。ただ彼はカエルにキスをしませんでした。彼はカエルをポケットに入れて家に歩いて帰りがけました。

「何をしてるのよ？」カエルは聞きました。

「私があなたにできる事が分からないの？あなただけを金持ちにも幸せにもできるのよ。お金の事を2度と心配しなくていいのよ！」

「うん、それは分かるけど。今は喋るカエルを家で飼うという考えの方が好きなんだ」

-終わり-